

差出人: csih@googlegroups.com は hidekih@wine.plala.or.jp の代理
送信日時: 2018年2月22日木曜日 21:33
宛先: csih@googlegroups.com
件名: [CSIH] 中部産業遺産研究会 ニュースレター 電子メール版 2018年2月22日発行

◆-----◆
中部産業遺産研究会 ニュースレター 電子メール版 2018年2月22日発行
◆-----◆

2018年3月3日開催 シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第36回のご案内
<http://csih.sakura.ne.jp/nitigi.html>

~~~~~  
シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第36回について、午前10:00～または午前10:30～の見学会のみの参加も可能になりましたので、ご希望のかたはお申し込み下さい。

見学会のみのお申し込みは、申し込みフォーム

<http://www15.plala.or.jp/hidekih/sympo.html>

の一番下のお問い合わせ欄に、「見学会のみの参加希望」と記入して、「送信する」のボタンを押して下さい。

折り返し、実行委員会から受け付けた旨のお返事を差し上げます。

~~~~~  
シンポジウムへの参加申し込みも、参加申し込みフォームから可能です。

<http://www15.plala.or.jp/hidekih/sympo.html>

~~~~~  
テーマ 「名古屋テレビ塔の新たな旅立ち –ランドマークとしてのこれまでとこれから–」

名古屋テレビ塔は、昭和28(1953)年9月から着工され、翌29(1954)年6月竣工開業した日本初の集約電波塔です。戦後復興のシンボルでもあるこの塔は、名古屋中心部のランドマークとして欠かせないものになり、市民の多くに親しまれています。この設計者の内藤多仲博士は、耐震構造の父と称され、大正期の関東大震災にも耐えた歌舞伎座や、戦後の東京タワーも含めて生涯に60以上の塔を構造設計し、塔博士とも称されます。名古屋テレビ塔は平成23年7月24日には「テレビ塔」としての役割を終えましたが、国の登録有形文化財にも登録されており、価値の高い存在です。そのため、新しい耐震基準に適合させる改修免震工事が計画されています。その準備の中で多数の資料が再認識されました。

今回、この資料調査を通して、内藤多仲博士の足跡を含め、私たちは名古屋テレビ塔の記録継承すべき歴史について認識を深めたいと思います。

そして、今後の修復や保存、さらに活用の仕方などを、参加者のみなさんと共に考えましょう

日時 2018年3月3日 土曜日 13:05～16:45

会場 栄・ガスビル 5階キングルーム(定員132名)

参加費 資料代+会場費 会員・学生・後援団体関係者1,000円、一般1,500円

見学会 シンポジウム当日の午前中にテレビ塔の見学会を実施。申し込み多数の場合は抽選。

定員40名(第1班:10:00～20名、第2班:10:30～20名)

見学会参加費:500円(見学会参加費のみ現地にて参加費を集めます)

懇親会 17:30～19:00 参加費:5000円(あと2名様まで受付可能です)

場所:栄ガスビル 地下1階「しら河」

#### 【主な内容】

講演1 「名古屋テレビ塔のあゆみ –内藤多仲博士の足跡と再発見資料研究の中間報告」

名古屋工業大学大学院 工学研究科 社会工学専攻 建築・デザイン分野

准教授 博士(工学) 夏目欣昇

本研究はテレビ塔会社の所蔵資料の利活用に向けて、記録整理と今後の指針を得ることを目的とし、資料群及び関連文献調査をもとに分析をおこなった。今回の調査によって資料群の5割程度の調査が完了した。得られた知見は以下の通りである。

①テレビ塔の工事記録を通して様々な機関との関係が現れた。②内藤多伸とテレビ塔との関係が図面資料を通して知ることができた。③テレビ塔の将来及び資料群の保存の為には体系的なデータベース整備が重要である。

講演2「名古屋テレビ塔の価値を見つけるー創建の歴史と技術的価値ー」

株式会社日建設計 エンジニアリング部門 構造設計部 西澤 崇雄

講演3「名古屋テレビ塔の価値を守るー免震化改修とデジタル活用ー」

株式会社日建設計 執行役員 設計部門代表 若林 亮

近年、文化財を活用しながら保存する「動態保存」に注目が集まっている。特に近代建築は伝統木造建築よりも活用がしやすく、事例も増加している。一方近代建築では現時点では文化財指定のないものも多く、不適切な改修で価値を損なう場合もある。本論は名古屋テレビ塔の改修工事を対象として文化的価値を見つけて価値を損なわない改修へと誘導する取り組みについて紹介する。また価値を見つける業務は、建物のアピールにも有効で、文化財建物の経済的な自立を促す効果があることを紹介する。

【シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第36回の参加申し込み】

詳細は、<http://csih.sakura.ne.jp/nitigi.html>

を御参照下さい。

多くの会員の皆様のご参加をお願い致します。

10:00～または10:30～開催の名古屋テレビ塔見学会に参加をご希望の方は、できれば早めに参加のお申し込みをお願い致します。



中部産業遺産研究会のニューズレターは電子メールアドレスをお持ちの会員の皆様に Google グループのメーリングリストのシステムを使って配信しています。

配信元：中部産業遺産研究会 会報編集委員・広報幹事 橋本 英樹

E-mail : [hidekih@wine.plala.or.jp](mailto:hidekih@wine.plala.or.jp)

Copyright 2002-2014 The Chubu Society For The Industrial Heritage, Allrights reserved.



このメールは Google グループのグループ「中部産業遺産研究会」の登録者に送られています。このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには [csih+unsubscribe@googlegroups.com](mailto:csih+unsubscribe@googlegroups.com) にメールを送信してください。

<https://groups.google.com/group/csih> からこのグループにアクセスしてください。

その他のオプションについては、<https://groups.google.com/d/optout> にアクセスしてください。